

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

平成31年 3月 1日

三田市議会議長 厚地弘行 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	無会派	代表者	印 [Redacted]
		議員名	
派遣者氏名	小山裕久		
視 察 先	1) 鹿児島県始良市 2) 鹿児島県志布志市		
調査事項 (調査目的)	1) 移住しやすい街推進について 2) 空家等対策計画について		
日 時	31年 2月 4日(月曜日)～31年 2月 5日(火曜日)		
視察先対応者	1) 始良市 企画部地域政策課 課長 原口浩幸氏 2) 志布志市 企画政策課地域政策課 係長 中尾秀昭氏		
添付資料	・ 名刺コピー ・ ようこそ始良市へ(第1次始良市総合計画基本理念) ・ 志布志市空家等対策計画		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	31年 2月 4日（月曜日） 14時～16時
視察先	鹿児島県始良市役所
調査事項	移住しやすい街推進について
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>概要 「県央の良さを活かした、県内一くらしやすいまちづくり」を始良市総合計画基本理念にし、県外からの3000人の移住、人口8万人を目指している事業である。</p> <p>所見 市総合戦略で「働くならあいら」「訪れるならあいら」「子育てならあいら」「住むならあいら」を合言葉に平成27年から30年にかけて2千人以上人口増加に成功した。近年人口増加する際は、近隣自治体からの人口流入を意識した施策をとりがちであるが、始良市においては県外45県から3000人の移住に成功した。</p> <p>私たちの仕事は全ての市民の福祉の増進を目的としていますが、これからの人口減少社会のなか人口を増やしていく対策には、民間企業のようにメインターゲットを絞った戦略が必要だと感じました、選択と集中をすることで、限られた行政資源を絞り込み投下していくことの必要性を始良市の移住しやすい街推進の事業で感じました。</p> <p>三田市においても様々な人口増加施策を行っており、人口の一部地域への偏より、中山間地域への移住の誘導策についての施策について質したところ人口が増加している始良市においても、同じような課題や要望があり、地域の活性化や小学校の存続も問題になっているとの事であった。この件については全国的な課題と認識でき、三田市においても他自治体との連携も必要と感じました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	31年 2月 5日(火曜日) 10時～ 12時
視察先	鹿児島県志布志市役所
調査事項	空家等対策計画について
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>概要 近年、人口及び世帯数の減少や既存の住宅、建築物の老朽化等に伴い使用されていない住宅、建物が増加しており、適切な管理が行われない空家は防災・防犯・安全・環境・景観の保全等、市民生活に悪影響を及ぼすことが懸念される。</p> <p>所見 志布志市における空家率は、全国的な空家率と比べると非常に高い18.34%ではあるが、平成22年より危険廃屋解体撤去補助事業を開始し、平成27年から29年までの3年間は志布志市シルバー人材センターに委託をして全ての空家を調査した。その結果から空家調査現地確認一覧表を作成し、空家の分類もできており行政が全ての空家を把握することができている。</p> <p>地域における人口の減少や住宅建物の老朽化は全国的な課題である。このようなことから、国も平成27年に「空家等対策の推進に関する特別措置法」を全面施行し、市町村に権限が付与されたが、そもそも行政がどこまで空家の現状を把握されているのかは疑問であり、権限が付与されようとも行使することは難しいと感じておりました。志布志市においては全ての空家について把握をしていることから全国的に空家率が高くとも防災・防犯など市民生活に悪影響が少ない街であると感じました。</p> <p>三田市においても空家対策の施策も大切ではありますが、空家の現状をしっかりと把握することが大切と感じました。</p> <p style="text-align: center;">以上</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

歓 迎

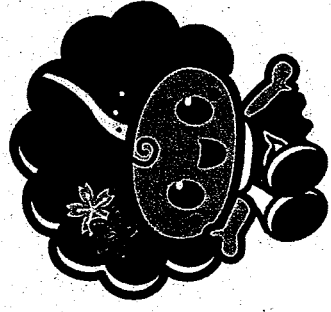
三田市議会議員の

皆さま

ようこそ

始良市へ

平成31年2月4日(月)



志布志市の空き家対策について

志布志市建設課
都市政策推進室
平成31年2月